

SEMINAR HOUSE NEWS

セミナー・ハウス

No.162
2001.4～9月

■対談「新しい大学セミナー・ハウス ——地域との連携を模索する」	／2・3・4・5	■新入生オリエンテーション合宿実施状況	／8
■教育プログラム報告	／6・7	■大学セミナー・ハウス開館40周年記念募金協力者一覧	／9
■法人ニュース		■わたしたちの合宿①②	／10
■理事会・評議員会報告	／8	■新入生合宿に参加して	／10
■常務理事会報告	／8	■ご利用状況	／11・12



Plain living and high thinking

財団法人 大学セミナー・ハウス
INTER-UNIVERSITY SEMINAR HOUSE, INC.

対談

新しい大学セミナー・ハウス

—地域との連携を模索する—

(平成13年11月27日)

黒須 隆一 (八王子市長)

絹川 正吉 (財団法人大学セミナー・ハウス館長・

専務理事/国際基督教大学学長)

絹川 本日は市長さんにお忙しい時間を調整してお越しいただきありがとうございます。

千人会と千人同心の関わり

ところで、大学セミナー・ハウスには八王子市にゆかりのある「千人会」という名の後援団体があります。この名前は八王子の「千人同心」からとったと言われています。

黒須 それは良いですね。

ご承知ですが、千人同心というのは素晴らしい役割を果たしているのです。千人同心の関係で八王子市と日光市、そして八王子市と北海道の苫小牧市とは姉妹都市の関係を結んでいるのです。

絹川 遠い北海道とはどんな関係があるのですか。

黒須 千人同心が苫小牧東部の勇払や白糠に警備と開拓に行き今日の北海道発展の基礎を築いたのです。また、日光では千人同心が東照宮の警備にあたり幾多の火災や戦火から守ったのです。

絹川 八王子の千人同心がですか。

黒須 はい。100人の班が10班あって千人いたのです。最後は勝海舟の江戸城の無血開城じゃないけれど、東照宮の警備では同じようなことがあったのです。他の場所では、官軍と戦うのだというところもあったのだけれど、千人同心の隊長が最後は戦わずに東照宮を明け渡したわけです。そのために東照宮は戦火に曝されず、燃えないで残ったのです。ですから日光では何しろ八王子千人同心のおかげで東照宮は燃えないで残ったのだと考えられています。戦いではなく、失火による火事があった時にも千人同心は身を挺して消火活動にあたって本体まで燃やさなかつたそうです。

市長になってから直接姉妹都市で交流をするようになって、いろいろなことを学びましたね。

絹川 市長さん、ご出身は八王子ですか。

黒須 私は水産の奥多摩湖の下で生まれました。父が土木をしていてダム工事に携わっていたので

す。父は栃木県で母は鹿児島県の出身です。奥多摩でもダムを作るようなところですから山奥じゃないですか。小学校まで行くのに4キロ以上を歩いていかなければいけない。ですから体は丈夫で、風邪を引いたことは20年以上ありません。私は両親に、特にこういう頑健な体に生んでくれたというところで母親に感謝しています。

絹川 八王子市の歴史は古いのですか。

黒須 はい、東京都の市としては一番古いですね。市制施行時には東京市と八王子市しかなかったのです。

絹川 初めから八王子市だったのですか。

黒須 それくらい古いということです。

絹川 いま市長さんは何期目ですか。

黒須 1期目で、それもまだ半分たっていないのです。この12月の議会が終わると折り返しです。

絹川 八王子の市議会とはうまくいっておられるのですか。

黒須 はい。私は市議会の経験があるし、議員の心理もよく承知しています。そういう点ではあまり議場を軽視しないからでしょうか。40人議員がいますが、予算や決算で反対をする人はほんの少数ですよ。それにこの人たちが賛成はしてくれないけれど、討論ではまさに賛成の意見も言ってくれます。みんな冷やかして、そこまで言うなら賛成したらいいいじゃないかと野次が飛びますね。しかし政策上賛成することはできないのでしようが。

進む地域と大学の連携

絹川 ところで、八王子には大学がたくさんありますが、八王子市への経済効果はあるのですか。

黒須 21大学で、学生人口が11万4千人です。ただ、大学がある場所が市の周辺部に多いでしょう。ですから住所は確かに八王子市ですが、八王子の町の中にある大学が少ないということで問題点はあります。

絹川 八王子市と大学との連携についてはいかが

ですか。

黒須 積極的にやっていますよ。学園都市推進会議というものを作って、市民と行政と大学との連携をいろいろと心がけてきました。これまで必ずしも思うようにいっていただけではありませんが、大学を取り巻く環境が厳しくなってきたこともあり、大学が地域との関わりについて深く関心を持つようになってきたことで変わってきました。

例えば、産・学・公の連携については、多摩地区や埼玉の西南部、神奈川県東部の一部を地域多摩圏と言うのですけれど、この地域におけるIT関連の最先端技術の産業集積は愛知県に次いで多いのです。そういう事情もあって、特に工学系の大学研究機関などが非常に積極的に企業に協力してくれました。

また、いわゆる市民大学のような公開講座があるのですが、これは現在18大学ほどが協力してくれています。

絹川 どのくらいの市民の方が受講されるのでしょうか。

黒須 何万人ですよ。生涯学習という観点から大学に入る社会人が最近すごく多くなっているでしょう。そういうこともあってか、市民から「一定の期間を終えたら修了証をもらえないだろうか」という要望が出ています。これは実際には難しいのですが。

絹川 修了証が欲しいわけですか。アメリカでは社会人が大学に行くようになったのは全て資格ですね。やはりマスターを持って会社に勤めるとそれだけメリットがあるわけです。日本はまだそこまでいっていませんが。

黒須 でも、そういう市民の需要は多いですよ。その意味でも、地域と連携し、目を向けていくことは、やはり大学にとってもプラスだと思っております。

絹川 それはそうですね、少子化でいま日本の大学は大変なわけですから。市政の中では、そういった大学との連携についての取り組みをされてい



黒須隆一 八王子市長

るのでしょか。

黒須 例えば、大学の図書館を開放してもらうとか、体育館を市民に貸し出してもらうようにしています。市の施設よりも大学の方にいいものがあるのですよ。

絹川 大学がサービスする側ですね。今までセミナー・ハウスは八王子市へのサービスをあまり考えてこなかったのですが、これからは地域との結びつきを強めて市民の皆さんに利用していただけるような機会が作れないかと考えています。

大学に呼びかける地域へのインターンシップ

黒須 大学との関わり合いで、八王子で行っているのはインターンシップ制度です。大学生が中学校・小学校教育のメンタルサポートなどの補佐をするのです。

絹川 一緒に遊ぶとかですか。

黒須 そう。結局、世代が近いでしょう。いま教員の高齢化が進んでいて、世代が全く違う。大学生なら、子どもはうんと身近に感じるのではないでしょか。

絹川 それは大学と契約するのですか。

黒須 そうです。インターンシップですから、大学も学生に単位を与えるわけです。実際に学校教育の現場に出て子ども達と接触できるということの評判がいいですよ。子ども達にもすごく評判がいい。いま八王子には小・中学校が106校あるのですが、インターンシップの学生をトータルで500人希望しているのです。八王子の先生全部だつて二千二百人なのですから、私は「これでは先生が要らないじゃないか」と冗談を言ったほどです。それくらい人気があります。

絹川 これは全国で八王子が初めてですか。

黒須 そういう積極的な取り組みというのは初めてでしょう。学校も競って協力してくれています。

絹川 私の大学でも三鷹市と連携しています、三鷹市役所の中にインターンシップで学生が入っています。

黒須 私は、例えば部活などもすごく大事だと思

っているのです。勉強に向いていないけれど体育の時間だったら生き生きとする子どもだつていますよね。社会人としての最低限の教養を持つていれば、あとは自分の得意なところを活かせるような教育が私はずっと必要だと思っています。そのためには体育の時間だけではなく、部活も必要だと思つています。だけど先生が高齢化して、サラリーマン化していますから、疲れるだと手当てがなければ嫌だという問題があります。それで、体育系の学校にインターンシップで部活の顧問・指導者をやらないかと頼んでみたのです。そうしたら向こうも「午前中は授業をやっているが、午後ならば是非やらせてください」と。そういうインターンシップもあるわけです。これは取り組みとして八王子市のオリジナリティがあるのではないかと思つています。

絹川 大学の活かし方は、いろいろアイデアを出さないとイケませんね。

黒須 やはり今は、大学の方の雰囲気が変わつてきたのだと思つています。

絹川 今まではシャットアウトしておりましたけれどね。

生涯学習の場としてのセミナー・ハウス

黒須 とこが、いまは無料で図書館を開放してくれる大学もいくつもありますよ。

セミナー・ハウスさんでも、生涯学習という視点からいろいろお考えになられると市民が来ますよ。絵画や書、彫刻や陶芸など、グループでやっているところがありますね。そういう展示会の案内をいただければ、私は95%行きますよ。

絹川 市長さんがお出でになれば効果が出ますね。

黒須 私のキャッチフレーズは「元氣な町を作りたい」ということなんです。それにはやはり市民文化も大きな要素の一つですから。

絹川 セミナー・ハウスで会員校が授業を行つて、市民の方にも来ていただければ、八王子に居ながら

八王子以外の大学の授業を受講することができると思つています。八王子市にある大学については市民講座がありますが、それ以外の大学の授業もセミナー・ハウスで市民の方に受けていただけたらいいわけです。

黒須 それはすごく関心が持たれると思つています。例えば学校の先生の中にも、そういうことに関心を持つている人は一杯いますから。一般の市民から言うと、セミナー・ハウスの存在は知つていないけれども、内容については全然知らないでしょう。

絹川 これまでセミナーのご案内もしていませんでした。

黒須 そうでしょう。

絹川 過去に土曜セミナーという社会人対象のセミナーを開講しましたが、市民の皆さんに知られず参加者が少ないために休眠状態でした。今度の「絵画セミナー」(南仏プロヴァンスの旅)が正式に八王子市に協力していただけて開講した最初と言えます。市の文化振興財団との共催という形で実施できたので市民の参加が多く盛況でした。

これからはもう少し八王子市に協力させていただきます。

黒須 そうすれば大学セミナー・ハウスの活性化に繋がると思つています。

絹川 セミナーハウスは非常にユニークな組織でしてね。セミナー・ハウスという言葉自体が創設者の飯田宗一郎氏の創案なのです。創立して40年近いわけですが、やはりこの辺でもう一度新しい展開をさせたいと思つています。一つは生涯学習で何かお手伝いできないかということ。何しろ今の学生たちは、先生と一緒に泊まるのは好きじゃない。だからこそ、セミナー・ハウスを使つて教員と学生との関係を作らなければいけないのですが、先生方も億劫がつて。

黒須 やはり、先生のほうが問題なのではないでしょうか。学生と溶け込んで、教師と生徒という関係をあまり持ちたがらない。私はさつき義務教育の先生方がサラリーマン化していると言いま

し



絹川正吉大学セミナー・ハウス館長

たけれども、大学も同じではないですか。
絹川 同じですね。結局、それは教育の基本でしょう。それがないわけですね。文部科学省もいろいろな手立てを講じようとしています。難しいですよ。ですから私は、「セミナー・ハウスが潰れたら日本が潰れる」と言っている。

地域と結びつくには開かれたセミナー・ハウスとなること

絹川 セミナー・ハウスはいままで大学の方ばかり向いていて、地域である八王子市とは殆ど何も関係ありませんでしたが、これはおかしなことですね。

黒須 八王子に21大学ありますが、これまでは殆どの大学の姿勢は同じだったのでしょう。それが今、大学と地域との密着、地域の子ども達、高校生・中学生を含めた、広範な地域との連携が大学の存続にも大きく影響するようになってきました。本場に、私などもセミナー・ハウスというのは市長になってから見て、「こんなにいい施設なんだ」とわかったけれど、市長にならなかつたら永久に知らなかつたと思います。それが一般の市民ですよ。入るきっかけもありませんしね。

絹川 確かに、自然の中にあつて景色はいいのですが、入りにくいし、ご老人には危ない。社会人の方をお迎えするなら少し道も良くしなければいけません。

黒須 あれだけの素晴らしい施設を市民が活用し得ないというのは勿体ない。時間がある高齢者が一杯いるから、そういう人たちに働きかけたりすれば、生き甲斐にしてくれると思います。さきほどの「絵画セミナー」もそういう意味で良い試みだと思えます。やはり社会の変化に伴って、大学セミナー・ハウスの役割も変わってきたのではないのでしょうか。

絹川 そうというのが大学の教員は下手なのです。百年一日の如く己の研究しかやっていませんから。だから、セミナー・ハウスで面白い企画をして、

新しい市政のための職員の意識改革

先生方を巻き込むと変わってくると思っています。
黒須 手前味噌になりますが、私は就任して2年間、市役所の職員の意識改革に全力で取り組んできました。私が一番最初に言った言葉が「株式会社八王子市でやる」ということ。公務員というのは危機感がないんですよ。だから見ていると、人と金というのは天から降ってくるように思っています。危機意識がない。コスト意識がない。スピードがない。

絹川 大学の職員もまさにそうなんです。

黒須 この三つを徹底して改善する、株式会社八王子市だけれども業種はサービス業であり、市内最大のサービス産業が八王子市だと言ったわけです。それで、企業に職員を派遣して、サービス業とはどうあるべきかを学ばせています。例えば、窓口での「いらっしゃいませ」「ありがとうございます」といった挨拶や電話応対の改善などを徹底させています。

絹川 いやあ、それはすごい。市長さんは以前のお仕事は何だったんですか。

黒須 経営者です。

絹川 やはりそういう感覚があるからですね。官僚から上がってくる駄目ですね。

黒須 役所というのはすぐ「前例がないからやらない」と言う。私は「前例がないというのは役所にしかない言葉で、大嫌いな言葉だから、俺の前で絶対使わない。企業だったら前例がないからやるんだ」と言いました。それをどのように徹底しているかと言うと、職員が三六〇〇人いるのですが、4年間で全員に私は会って話をすることにしています。職員を15、16人単位で集め、自己紹介をさせて直接対話するのです。経営者がどんな考えを持っているか社員が知らないようでは、そんな会社は伸びる筈がありませんから。

課長・係長の昇進試験が新しく創設されたのですが、その一回目の時に受かった人に講話してく

れと言われたんです。しかし私は試験に落ちた人も別に集めて同じ時間話をしました。実は私自身、都議会のスタートの時に2回失敗した経験を持っていたのです。落選するとその後、本当に大変なのですが、その体験を話すと非常に真剣に聞いてくれます。また、辞令書を渡すときにも「頑張ってくれ」と言いながら一人一人と握手します。

市政の判断基準は「市民のためになるかどうか」。ともかく、前例があるかどうかや、多摩の26市のうち何市でやっているかということは参考にはなるけれど判断基準にはなりません。判断基準は市民の立場に立って、市民のために良いか悪いか、それが唯一の判断基準だと私は口を酸っぱくして言っているんです。

絹川 市民を学生に置き換えれば、まさに大学の問題ですね。学生さんがどう考えるかということを中心にしなければいけない。立命館大学の理事長はスタッフから上がってきた方ですが、彼は大学の改革には先生は頼りにならないと言っています。学生が唯一の頼りだと。学生の力を借りなければ駄目だと堂々と公言するのです。

黒須 私も同じようなものです。去年、市の審議会には、女性を3割入れなさいと言ったんです。それと、公募市民を積極的に必ず入れなさいと。例えば、町づくりの基本構想策定委員会というものがあるのですが、そこに公募した市民130人に入ってもらいました。私も基調講演で八王子の町の現況を話して、どういう姿勢で取り組んでいるか、これから八王子の目指すものは何かを説明しました。それをやってから、分科会を作って、市のそれぞれの担当がきちんとレクチャーをする。もちろん、手間はかかりますが、そのことによって市民のふるさと意識というものは絶対変わってくると思うのです。だから市民参加の形を必ずとりなさい。必ず市民の意見を聞きなさいと言っています。

絹川 その成果があがると市長さんもやり甲斐が

ありますね。

黒須 楽しいですよ。都議会出身者で26市の市長になったのは私が初めてなんです。都議会と市長のどちらが忙しいと聞かれたことがあります、「10倍忙しくなったが、その代わり30倍面白い」と答えました。だって部下が三六〇〇人もいるんですもの、面白いですよ。それに、八王子の町自体のポテンシャルもすごく高いと思っています。町を発展させるための要素が八王子くらい揃っているところはありませんね。

例えば、八王子の農業というのは、生産量と農業従事者の両方で東京全体の1割を占めるんです。だから農業を八王子の産業の一つとして位置付け、全力を尽くしてバックアップします。

それから観光も産業の一つです。高尾山は年間250万人来るとから。世界遺産の日光でも300万ですよ。

絹川 三六〇〇人の職員を束ねるには相当の包括力がいられますね。

黒須 でもそんなに意識せずに自然にやっています。この4年間で職員を400人は減らします。民間と競合するような部門で、民間の方がいいことは民間にやらせる方針です。

絹川 大学でも同じような話があります。文部科学省の大学課長と議論している時にあった話ですが、文部科学省は色々な改革案を出しているんですけども、大学はそれに乗らないわけです。「それならば、大学が応じないのなら応じないで結構です」と、「社会は別の所を選んでその仕事をしてもらうことになりました」と言われました。

黒須 同じですね。

絹川 それで先生方が変わるかといったら、それでも動かない。大学の教員は本当に変わらない。世の中感覚がないですよ。

黒須 前にも言ったように、私は職員と直接話し合う機会を持っているわけですが、それによって随分変わってきているところがあると思います。「あなた方にとってこれは常識だろうが、世間から

見ると非常識なんだよ」と、いろいろな例を挙げて言うわけです。公務員に関する話が出てきたとき、その8割は批判ですが、話を聞くと些細なことまで評判を落としている。ですから、「些細な事に気をつければ良くなるぞ、予算要らないんだから挨拶しろ」と言っているんです。

それから、今年の2月1日から市役所の窓口も時差出勤により全部午後7時まで開くようにしたんですよ。結局、他の職場でも残業しているわけですから、冷暖房もつけなければならぬし、経費としてはいくらか変わらぬのですよ。ライフスタイルが変わっているのだから、市役所も変わる必要があります。

絹川 市民の視点で物事を判断するという立場を貫徹されているのは、素晴らしいですね。私も学生の視点で判断する立場を貫徹しなければと思います。

話は変わりますが、八王子も大変な変貌ぶりですね。昔は本当に寒村でしたよ。セミナー・ハウスができた頃、南側は何もありませんでした。今でも南側の開発は遅れていますね。

黒須 今度、映画館のあった大きな再開発ビルを作りますよ。

八王子市が取り組む大学との交流

絹川 いわゆるサテライトというか、いくつかの大学が都心にオフィスを構えますが、八王子の大学が八王子の中心にサテライトを作るといふ動きはありませんか。

黒須 いま言ったその再開発ビルにも山野美容芸術短大がテナントで入りますね。

絹川 京都では京都の大学がコンソーシアムを作りまして、京都市が資本を出して、駅前には大きなビルを作って、そこで公開講座をやっています。ついに最後の牙城だった京都大学も入りました。八王子でもそういうコンソーシアムを作る事は考えていませんか。

黒須 現状では、そこまでは考えていません。た

だ、駅前に学園都市センターを作ったのですが、そこでよく各大学が出前講座をしています。

絹川 セミナー・ハウスの一つの強みは大学間のネットワークを持っていることです。協力してくれる教員のネットワークがあるのですが、活用しきっていないわけです。それを何かの形で市民サービスにつなげる事ができればと思います。

市と連携しながら、生涯学習部とセミナー・ハウスの会員校との連携で何かできないでしょうか。**黒須** 今まではセミナー・ハウスの方で地域に向かってという姿勢を我々は感じなかったですよ。だから市の学園都市推進会議や窓口としての生涯学習部でも、セミナー・ハウスの名前があまり出てきたことがないんですよ。

八王子の21大学、最近は産業振興という面では日野の都立科学技術大学も合わせて22大学が具体的な連携を始めました。けれども、セミナー・ハウスというのは存在することは知っているけれども、それ以上のことは何も知らなかったというのが実態だと思いますね。

絹川 これからはセミナー・ハウスもせつせと顔を出させていただきます。今後、市のお力添えで何か新しい展開ができればと思います。

黒須 是非やってみてください。得るものは必ずあると思いますから。

絹川 今日は非常に勉強になりました。今度一つFDや学長の研修なんかで、市の経営ということをお話いただければ、それが大学の経営にもつながってくると思います。

黒須 先生にも是非お力をお借りしたいし、私がお役に立てることがあれば声をかけてください。

絹川 よろしくお願ひします。ありがとうございます。(終了)

第2回「世界とアメリカ」セミナー アメリカの21世紀像

—ブッシュ政権の政策を
多角的に分析する—

2001年6月15日～17日

【基調講演】

アメリカン大学国際関係学部教授

趙 全勝

【セクション演習講師】

明治学院大学法学部教授

* 石井 修

日本大学国際関係学部教授

* 宇佐美 滋

東洋英和女学院大学国際社会学部教授

* 高松 基之

埼玉大学教養学部教授

永田 雅啓

立教大学法学部教授

* 佐々木 卓也

拓殖大学海外事業研究所教授

鈴木 佑二

聖心女子大学文学部教授

* 関場 誓子

東京外国語大学外国語学部教授

* 渡辺 啓貴

中央大学法学部教授

* 滝田 賢治

一橋大学法学部講師

山田 敦

* 印は運営委員

【参加状況】

17校12名（男53名、女69名）

21世紀の始まりと今年一月誕生したブッシュ政権の展望を表題として、このセミナーは

趙先生の問題提起で始まった。ブッシュ政権の内政、外交を多角的に検討することは21世紀の世界を展望する上で重要だとの位置付けに参加者の期待も大きかった。

国内の社会問題、経済問題、日米安保問題、外交問題、知的所有権の五つの分科会での討論は2名ずつ配置された提題者が運営委員をも兼ねる構成になっており活発な討論が行われた。

参加者は上記のテーマに興味や関心を抱き、問題意識を持って参加した人が多かった。このため、討論が行われた分科会に対する評価は「大変良かった」「良かった」を合わせると全体の74%にのぼった。

セミナーは2泊3日の日程を予定通り終了し散会した。

第185回共同セミナー マスメディアの現場から

—これでもキミは
マスコミに来るのか?!—

2001年6月23日～24日

【基調講演】

(株)メディアファクトリー出版局第三編

集部部長

長園 安浩

【セクション演習講師】

日本経済新聞社情報技術本部システムマネ

ージャー

関口和夫

教授

中野 潔

弁護士

川人 博

集英社・文芸編集部

菅島 治子

ヤマハ・ミュージックメディア営業部海外

椿坂 妙子

営業課長

内田 勝

(株) TBS エンタテイメント情報本部情報

二部副部長

【参加状況】

29校98名（男22名、女76名）

今回のテーマは共同セミナー企画としては異色であった。

直木賞作家の篠田節子氏を中心とした過去の共同セミナー参加者らがセミナー成功への知恵を出し合ったこと、テーマが就職セミナーの性格を打ち出したこと、それに呼応し参加者構成も社会科学系の学部3年生が半数近くを占めたこと。五つ設置された分科会の講師はボランティア参加のゲストや支援の方々を含め約20名にのぼり、メディアの現場の現役・OBが主力であったことなどを特徴とした。

就職セミナーという位置付けではあったが、参加者は単純に就職の手がかりなどを得ようとするに止まらず、マスメディアの実情を知りたい、問題意識を深めたいという真剣な動機で大多数が参加した。

このため、アンケートによれば満足を感じた参加者は73%に達した。各分科会は熱気にあふれ、徹夜で討論した分科会もあらわれた。以上のような特徴を見た今回のセミナーは、大学共同セミナーの一つの典型として今後継承していくこととなった。

第38回大学教員懇談会

大学の世紀

2001年7月7日～8日

【基調講演】

(株)三井物産戦略研究所所長 寺島実郎

【提題講師】

広島大学高等教育研究開発センター教授 有本章

科学ジャーナリスト 馬場 錬成

国際基督教大学教養学部教授 風間 晴子

メディア教育開発センター助教授 吉田 文

筑波大学大学研究センター教授 山本 眞一

千葉大学理学部助教授 秀島 武敏

桜美林大学国際学部名誉教授 上山 民栄

国際基督教大学教養学部教授 北原 和夫

中央大学商学部教授 建部 正義

神奈川大学外国語学部教授 松山 正男

メディア教育開発センター助教授 吉田 文

【参加状況】 54校77名（男72名、女5名）

21世紀はグローバル化の下、新しい知的営みが求められるという時代認識から「大学の世紀」への期待がかけられている。そのなか

で、大学教員がどう正しい自己の認識を保持し、自己を改革していくのか。このような主題に込められた寺島実郎氏である。

同氏は世界の中での日本の位置、それとの関連で教育の役割や方向を示した。これに続いて4人の講師から大学教授職の課題、なぜ日本では科学文化が育たないのか、新たな知の営みを探る—個の確立を目指すリベラルアーツ教育、大学の教養教育—日米が直面する共通の課題というテーマで提題が行われた。

各分科会では4名の講師を囲んで議論を深め、二日目の全体会で総括して日程を終了した。

第4回大学職員研修プログラム 存在意義のある大学へ

—問われる職員の自己改革—
2001年7月23日～25日

【基調講演】

共立女子大学学長 阿部謹也
桜美林大学副学長 諸星 裕
元中央大学事務局長 高橋輝義
上智大学学事部長・外国語学部教授 堀坂浩太郎

前東京都立日比谷高等学校長(財) 日本修学旅行協会理事長 川上一雄
慶應義塾大学大学塾員センター部長 鹿沼昭彦

日本生命保険相互会社人事開発室課長 西田誠一
慶應義塾大学入学センター部長 田邊久夫
国際基督教大学学生サービス部主任 岸本 誠

上智短期大学事務部長 佐々木勝洋
立教大学総務課長 新地章倫
電気通信大学総務課主任 松本由紀子
聖心女子大学入学・調査課課長 吉田久治

【参加状況】
73校123名(男92名、女31名)

大学が今日の社会でその使命を達成するにはその一翼を担う職員の意識改革、自己実現を図らねばならない、それをどう進めるかが今回で4回目となった本プログラムのねらいであった。

その目的に向け、「大学は今どうあるべきか」というテーマで阿部学長が教養教育の現在を、諸星副学長が職員養成大学院立ち上げにいたる基調講演を行った。

また今回は分科会討論を重視した。参加者は申し込み段階で要項に示された分科会テーマを選択し、その所属を決めた。提題は分科会ごとに行われ、延べ7時間半の討論を行った。参加者の感想は、基調講演ならびに分科会の各講師の講演には「良かった」と評価。分科会の時間についてもほぼ同様であった。しか

し分科会が「充実していた」という評価は23%から71%と分科会による差があった。

第22回大学教員研修プログラム 授業を分析し、創造する

2001年9月22日～23日

千葉大学園芸学部教授 山内正平
【参加状況】
54校79名(男71名、女8名)

今回のテーマは教授法を単にテクニクだけではなく、授業の根本的な位置付け、理解の上にたち、授業を巡る諸問題の掘り下げを目的として行われた。

特に基調講演は設けず、授業参観プロジェクト、FDへの学生参加、大学基礎教育の現状と課題、授業の国際比較、予備校教授法などのテーマが全体会で提起され、その後各分科会で討論を行った。

今回の最大の特徴は、参加者が各分科会所属を事前に決定したことに加え、各分科会ごとに日ごろの授業実践を2～3名の先生が発表した内容を基に討論を進めたことである。

参加者は公費で75%が参加したが、義務感だけで参加したのではなく、積極的に討論に参加(約6割)し、所属の分科会を良かった(約8割)と評価した。

【提題講師】

京都大学高等教育教授システム開発センター 助教授 石村雅雄
防衛大学校機械工学教室教授 鶴野省三
富山大学教育学部助教授 向後千春
東海大学工学部助教授
サンドウー・アガルシユ
古藤 晃
古藤事務所・予備校講師
慶應義塾大学総合政策学部教授
井下 理
中央大学商学部教授 建部正義
電気通信大学電気通信学部教授 中田良平
立教大学文学部教授 佐々木一也
筑波大学教育学系教授 清水一彦
京都大学高等教育教授システム開発センター 助教授 田中每実
東海大学理学部教授 安岡高志



▶第2回「世界とアメリカ」セミナー

平成13年度
第100回理事会・第80回評議員会
平成13年5月28日/アイビーホール青学会館

【出席者（順不同）】

（理事） 中嶋嶺雄、絹川正吉、本江哲郎、中川秀恭、天城 勲、宇野重昭、佐野博敏、荻上紘一、佐藤 保、岡野加穂留、（評議員） 三宅彰、川原栄峰、井早康正、柳井道夫、秋山正幸、井下 理、本田和子、西原 正、（監事） 鈴木康司

【委任状による者】 理事・監事9名、評議員43名

【主な議事】

◇役員人事について
（新任理事） 佐々木 毅（東京大学学長）、安西祐一郎（慶應義塾大学学長）
（新任監事） 宮田清藏（東京農工大学学長）
◇評議員の人事について
（新任評議員） 後藤祥子（日本女子大学学長）、山縣喜代（聖心女子大学学長）、進士五十八（東京農業大学学長）、石田恒好（文教女子短期大学学長）

◇平成12年度事業報告について
①平成12年度の施設の利用状況は、宿泊延人数が三三、五三二人（前年度比で二、一六二人の増加、稼働率が93%（前年度比で2.3%増）であった。
②施設・設備の改修は、崖崩れの本格的修復工事のほかに、当初予算にはなかったが、ユニット・ハウス第3群下トイレ・洗面所の給水管破裂に伴う仮設のトイレ・洗面所の増設と井戸水のにごり発生に伴う当面の対策として濁度計の設置を緊急に実施した。

③主催セミナー事業は、従来のプログラムに加えて新規に「世界とアメリカ」セミナー1回、フィールドワーク2回を実施した。さらに「宿泊大学説明会」を実施した。主催セミナーの参加者数は、八七五人で対前年度比約100人増となった。
④これまで固定資産に計上されていた用地測量費・建設仮勘定については、文部科学省の指導もあり、除却することにした。
◇平成12年度一般会計決算について
①当期収入は、対予算比で3.4%増収となった。マレーシア留学生の利用が復活したことによって事業収入が4.8%増となった。また防衛大の加入による会員校会費と新規セミナー開催によるセミナー会費がそれぞれ微増となった。
②当期支出は、対予算比で0.8%超であった。人件費・修繕費・印刷製本費・セミナー事業費の節減に努めたが、一方で、利用者増に伴う管理委託費・光熱水費や新規事業開催に伴う諸集会費の増や、またトイレ洗面所増設及び改修工事、濁度計設置などの固定資産取得支出が増加したことが予算超過の原因である。
③当期収支差額は一一、八三二、三八〇円の減となり、次期繰越収支差額は一一、八〇六、九六五円となった。平成14年度以降については、運転資金として積立金の取崩等を考慮せざるを得ないほど厳しい財政状況にある。

◇募金活動について

平成13年3月30日付で文部科学省から寄付金の免税取扱に必要な証明書が交付された。募金の体制や資金の用途など具体的な計画の具体化は、理事長及び常務理事会に一任された。

平成13年度
常務理事会
平成13年5月28日/アイビーホール青学会館

【出席者（順不同）】

（常務理事） 宇野重昭、佐野博敏、小山宙丸、荻上紘一、佐藤 保、（オブザーバー） 三宅彰、（法人） 中嶋嶺雄理事長、絹川正吉館長、本江哲郎専務理事

【主な議事】

第100回理事会・第80回評議員会の議題、募金活動、将来計画、土地の賃貸他。
【第2回】平成13年7月8日/大学セミナー・ハウス
【出席者（順不同）】（常務理事） 宇野重昭、小山宙丸、佐野博敏、荻上紘一、佐藤 保、（オブザーバー） 三宅彰、（法人） 中嶋嶺雄理事長、絹川正吉館長、本江哲郎専務理事

【主な議事】

「大学革命 別冊『環』」
「知の銀河系―FD講演会の記録」
「ぼくがイグアナだったこと」
「岡宏子と考える保育の科学」
「大学教育の再生をめざす―FD実践事例に学ぶ」
「京都大学百年史 資料編三」

平成13年4月～6月新入生オリエンテーション合宿実施状況

学校名・学科名	*は2泊	学生	教師	合計
●4月 (23グループ)				
東京薬科大学 (新入生歓迎キャンプ) *		262	0	262
共栄学園短期大学・住居、児童福祉、社会福祉学科		1	28	235
共栄大学・国際経営学科		233	24	257
中央大学・独文専攻		72	9	81
中央大学・心理学研究室		87	2	89
東京都立大学・電気工、電子情報工学科		78	10	88
大妻女子大学・社会生活情報学専攻		117	10	127
お茶の水女子大学・理・生活科学部		316	25	341
東京コンピュータ専門学校		231	13	244
東京工芸大学・建築学科		126	17	143
東京都立大学・応用化学専攻		67	9	76
日本女子大学・社会福祉学科		98	13	111
東京工科大学品川校		121	9	130
東京都立短期大学・経営情報学科		218	20	238
大妻女子大学・児童学科		119	15	134
東京学芸大学・幼児教育学科		20	7	27
東京都立短期大学・経営システム学科		99	13	112
東京学芸大学・社会科教室		77	8	85
東京工科大学・情報通信工学科		119	13	132
東京工科大学・電子工学科		179	18	197
東京工科大学・情報工学科		219	13	232
東京工科大学・機会制御工学科		227	18	245
東京学芸大学・総合社会システム教室		53	8	61
●5月 (12グループ)				
津田塾大学・英文学科		294	14	308
東洋大学・社会経済システム学科		187	7	194
白梅学園短期大学・保育科*		253	16	269
武蔵野外語専門学校		12	5	17
職業能力開発総合大学校東京校		54	4	58
東京学芸大学・環境教育学科		32	2	34
東京学芸大学・生物学科		26	4	30
東京都立短期大学・文化国際科		112	13	125
早稲田大学・理工、建築学科		172	23	195
東京学芸大学・表現コミュニケーション専攻		38	5	43
東京学芸大学・国語科		31	1	32
東京学芸大学・欧米研究教室		27	2	29
●6月 (2グループ)				
東京都立大学・機械学科		31	8	39
東京学芸大学・学校教育選修		44	3	47
計37グループ (20校) 実人数		4,658	409	5,067
	実人数	5,229	425	5,730

平成13年度第一―四半期予算執行状況、当面の大学セミナー・ハウス経営改善計画、募金計画、土地の賃貸、協力会員校制度他。

寄贈図書

平成13年4月～9月

「算数ができない大学生」 東洋経済新報社
「学力低下が国を滅ぼす」 日本経済新聞社
「建築モダニズム―近代生活の夢とたち」 (株)エクスマレッジ

「大学革命 別冊『環』」

山形大学・鬼武一夫殿

「知の銀河系―FD講演会の記録」 絹川正吉殿

「ぼくがイグアナだったこと」 市川節子殿

「岡宏子と考える保育の科学」 大野澄子殿

「大学教育の再生をめざす―FD実践事例に学ぶ」 清水一彦殿

「京都大学百年史 資料編三」 京都大学殿

大学セミナー・ハウス創立40周年記念募金のお願い

大学セミナー・ハウスは学生と教員が寝食を共にして学びあい、語り合う場として皆様のお役に立ってまいりました。御蔭様で2002年に創立40周年を迎えます。この間大学を巡る諸状況や社会環境も大きく変わりました。

当今の学生のライフスタイルやIT革命の進展に合わせ、また生涯学習のニーズに応えるため、大学セミナー・ハウスでは諸設備を整備し直すための募金活動を実施中です。引き続き皆様のご支援をお願い申し上げます。

なお募金要項は次のとおりです。

募金目標額：2億円

募金の種類：個人1口5000円、法人1口50,000とし、1口以上

募集期間：～2003年3月末まで

払込方法：銀行の場合：三井住友銀行北野支店（店番号268）「財団法人大学セミナーハウス」普通預金口座（口座番号0493285）
郵便局の場合：口座番号00150-1-74590

免税措置：文部科学省から募金に伴う免税措置の認可を得ております。

別途募金趣意書を準備しておりますのでご連絡ください。

現在までにご賛同いただいた方々のご芳名を掲載させていただきます。

合田 周平	10,000	黒田 道雄	10,000	西成 典子	10,000
秋間 実	5,000	国際教育交流協会	5,000	西脇 威夫	20,000
安宅 光雄	10,000	小西 正捷	5,000	根石 守雄	100,000
阿部 齊	5,000	小林 一彦	70,000	箱木 真澄	10,000
新井 明	5,000	小林 勝法	5,000	八田 昭雄	20,000
荒井 猷	10,000	小林 善彦	10,000	服部 陽一	5,000
荒川 幾男	10,000	小山 弘志	10,000	羽田 三郎	10,000
荒川 有史	5,000	佐伯 彰一	20,000	原 誠	10,000
有野 久雄	10,000	笹岡 太一	20,000	原島 幸太郎	5,000
生田 茂	10,000	佐藤 豪	20,000	東 壽太郎	5,000
伊倉 退蔵	15,000	佐藤 進	10,000	久留 都茂子	5,000
池井研究会 O B 会	30,000	佐藤 玉枝	10,000	肥前 栄一	10,000
池井 優	30,000	佐藤 保	200,000	一松 信	5,000
石 弘光	50,000	佐藤 光	10,000	兵頭 圭介	10,000
市川 邦彦	5,000	澤島 侑子	10,000	平木 典子	10,000
一番ヶ瀬 康子	5,000	Jフォン株式会社	1,000,000	平野 健一郎	50,000
井手 久登	10,000	下森 定	5,000	福井 憲彦	10,000
出居 茂	100,000	柴田 泰比古	5,000	福田 一郎	30,000
出光 直樹	5,000	柴田 勇造	10,000	福田 恵子	5,000
伊藤 一郎	5,000	島田 淳子	5,000	福西 基	40,000
伊藤 正直	10,000	清水 一彦	10,000	福山 直美	10,000
稲田 拓	20,000	清水 護	10,000	藤井 健志	20,000
井上 繁	5,000	清水建設株式会社	2,000,000	藤井 弥太郎	10,000
今井 栄	100,000	下司 昌一	30,000	藤田 文子	30,000
今井 哲哉	50,000	寿岳 潤	50,000	藤永 鉄雄	10,000
今堀 和友	10,000	神保 信一	30,000	布施 壽雄	10,000
入江 和生	10,000	末松 安晴	10,000	古本 捷治	5,000
岩崎 征人	20,000	杉山 好	30,000	逸見 謙三	10,000
上田 明子	5,000	鈴木 一道	10,000	外間 寛	10,000
氏原 淳一	10,000	鈴木 恂	10,000	本間 士郎	10,000
宇野 重昭	500,000	鈴木 皇	20,000	増田 陳紀	10,000
江尻 美穂子	5,000	鈴木 三男吉	10,000	松尾 章一	10,000
江幡 玲子	10,000	鈴尾 稔	5,000	松尾 秀雄	10,000
海老沢 信一	5,000	酢屋 善元	30,000	松田 千鶴子	10,000
海老根 宏	10,000	関本 昌秀	10,000	松田 宗男	30,000
大江 淳良	10,000	瀬戸岡 紘	50,000	松田 安弘	5,000
大熊 徹	5,000	十代田 知三	10,000	松本 達蔵	5,000
大蔵 隆雄	5,000	外池 孝雄	10,000	松本 仁	5,000
大友 浩	10,000	高田 達雄	10,000	松本 宏	5,000
大森 東亜	50,000	高橋 三郎	10,000	松山 正男	100,000
岡 惺治	10,000	高橋 恒郎	5,000	丸山 友一	50,000
岡明 秀忠	5,000	高見沢 邦郎	10,000	三浦 安子	10,000
岡崎 正	5,000	高山 旭	10,000	水野 弘文	500,000
奥田 真丈	10,000	滝口 俊子	5,000	宮崎 公明	10,000
奥山 典生	5,000	田島 澄江	10,000	宮野 三郎	100,000
小倉 芳彦	20,000	建部 正義	10,000	向山 文雄	10,000
尾田 綾子	5,000	田中 喜久昭	10,000	村上 健	100,000
尾田 幸雄	5,000	田中 國昭	5,000	匿名 希望	332,000
小野寺 嘉孝	5,000	田中 彌壽雄	30,000	村田 光二	10,000
小幡 史朗	10,000	谷 俊治	10,000	森田 明	20,000
海部 宣男	50,000	田村 皖司	100,000	森田 拳司	20,000
柏原 啓一	10,000	田村 猷	50,000	森山 ヨシ子	15,000
加藤 一郎	5,000	千羽 喜代子	5,000	八木 江里	30,000
加藤 晴久	5,000	土井 恵美子	10,000	柳沢 治	10,000
金子 晃	5,000	得田 保雄	5,000	柳父 園近	5,000
狩野 紀昭	10,000	戸張 よし子	50,000	柳堀 素雅子	5,000
北村 嘉行	10,000	富村 義彦	10,000	山岸 健	50,000
キッコーマン株式会社	300,000	島海 俊宏	10,000	山下 凱男	10,000
金 容媛	5,000	長岩 寛	10,000	山田 圭一	10,000
木村 恭子	10,000	中嶋 章	5,000	山田 耕司	5,000
木村 光江	5,000	中嶋 嶺雄	2,000,000	山田 俊彦	5,000
桐原 保法	20,000	中添 淳	10,000	山西 真	10,000
楠川 絢一	30,000	中富 光國	10,000	南大学セミナーハウス食堂	50,000
國岡 昭夫	5,000	中西 治	10,000	吉田 光孝	5,000
熊川 忠	5,000	並木 浩一	20,000	吉野 廣訓	5,000
熊田 禎宣	10,000	西尾 隆	10,000		
栗林 恒雄	20,000	西川 大二郎	10,000		

(敬称略)(単位：円)

わたしたちの合宿①

明星大学修士一年 三井 高志

夏も終わりに近い某日、台風一過とはまさにこの事。前日までの荒れた空模様は嘘のように、晩夏の空は高く澄みわたっていた。
木々の間を抜けて夏の名残の強い日差しが降り注ぐ中、勾配の多いセミナーハウスの小道を歩いてゆく。それはまるで異界へと続くトンネルのように私達を大学とは違う別世界へと誘ってくれる。コンクリートに囲まれた大学とは異なり、自然に囲まれた合宿は、どこか新鮮なおもちゃがある。
今回の合宿の目的は、私が在籍する井村ゼミの、四年生十一名、修士四名の卒業論文及び修士論文のプロットを決めることであった。
八王子の自然に抱かれ、合宿は当初静かに始まった。しかし、それも次第に熱を帯び、本館の消灯時間を過ぎてまで論文作成の指導が続くという一幕もあった。

私も他の学生各人の意見が聞け、また論文作成の一助が出来るという。非常に貴重な体験をすることが出来る。最後に、この合宿の記念にと、サクラノボの木を植樹した。何年か後に、この木とともに結実した自分があると思う。



わたしたちの合宿②

セミナー・ハウスと私

立教大学文学部教授 渡辺憲司

理想と現実と、緑と坂道が逆三角形の中で混濁している。宿醉のまま、この食堂の朝食を食べたのが、最初いつたのかを思い出せない。院生になったすぐだったと思う。いわゆる大学闘争の頃で、大学の付属の施設を使うのが、何となく後ろめたいような気がして、とは言っても、大学の場から離れられる訳でもなく、ここへ来たような気がする。鬼籍に入った恩師の前田愛先生と一緒に来たような気がする。この落ち着いてゆくりしたような記憶は、この場所にはない。問題提起を突きつけられて、論争に明け暮れ、果ては朝まで飲んで寝不足のままに又論議をするというのが、この場所のパターンだったよ

うである。日常性を引きずりながら、日常性を離れさせるような所を離れさうが、それよりも緑の深さのせいであろう。その緑も学生時代にはあまり記憶がない。就職して、地方へ行っただけでこのことをしばらく忘れていた。十二、三年前から、又ほとんど毎年来るようになった。

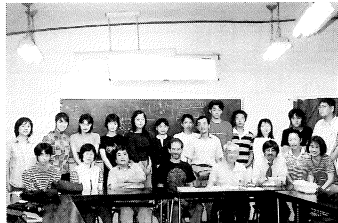
今年(2001年)は、3度も来た。一度は、大学の集中講義である。これは、毎年夏に大学が行っている企画で、多分20年以上もこの場所で行っている。今年のテーマは環境問題であった。他の二度は米国議会図書館の日本古典籍の目録作成作業の合宿であった。酒の量は減った。俺はシンデレラなどと嘯き12時前には寝るようになって、朝飯がうまくなったが、少数教育などという言葉が死語化している。時流に従うことが至上命令のような昨今の大学教育の中で、この大学セミナーハウスの果たす役割は貴重である。理想を追った初心を忘れず役割を貴重大事にしたいと思う。

逆三角形の本館が出発点であった。私は大学セミナーハウスの本館で育てられた、そして今も未だ混濁の中にいる。

新入生合宿に参加して

●「狭く深い知識」と「幅広く浅い知識」どちらが理想的なのかという話題で、両者は異なっている。に見えて一致しているという講義に、とても感銘を受けた。特に薬学においては、医療関係の社会問題が増加しており、薬学生として専門知識を深めることで、様々な社会問題に視野が広がっていくと思う。そのことを目標に、四年間、しっかりと学んでいきたいと思う。(東京薬科大学・伊波史)

●今回参加してみて、今後の自分をどうしていけば大学の生活を充実させる事ができるか、という事を学んだように感じる。それは友達をつくる事。これにつきるようには思えた。上級生の方々はみな仲が良く、常に楽しそうにしていた。それは常に周りに友達がいなくて、自分から会話、やりとりを楽しもうとしていたからだと、自分は今回のセミナーで先輩達が望んでいた事を最大限に活かす事ができなかつたと思う。でも、友達をつくるという機会、場所をもつてくれた先輩方、本館にありがたうございました。もうと積極的になればよかったと痛感しております。来年、機会があれば自分もこのセミナーにもう一度参加して、新一年生のためにがんばりたいなあと思っております。先輩方、本館にお疲れ様でした。そして、ありがとうございます。



これからもよろしくお願いします。(東京薬科大学・山本拓真)

●講義でのキーポイントとなった認知の複雑性という意味を、身近な例を通して学ぶことが出来ました。そしてまた、大学でこれから学び、職業につくにあたり、大切なことは単に、薬学の専門知識だけではなく、人とコミュニケーションをすることの両方であることを学びました。たび重なる医療ミスの原因も、大切なコミュニケーションの欠如ではないかと思えました。これから大学で学ぶにあたり、自分の勉強する方針が見えたら有意義な講義でした。

●今回のセミナーで私が得たことは二つある。一つはまたそれは親しくない同僚と交流を深めることができたこと。もう一つはディスカッションを通してみんなの福祉に対する様々な考え方や将来の目標を聞き、改めて自分のこれからの道を深く考えさせられたことだ。結局第二志望の福祉を学ぶことになり正直自分の将来について悩んでいた私にとって、価値観の異なる多くの意見を聞く機会を持てたのはとても大きかったと思う。

●正直言うと、初めは乗り気ではなかった。が、そんな思いはすぐに消えた。普段は見られない先生方の一面、討論では、初めて言葉を交わす同級生達と将来の目標を語り合えた。友達の本音と涙に、思わず私の目も熱く話した。部屋に戻ってからは興奮は冷めず、友達と遅まで話した。この合宿セミナーで私は、改めて自分の目標を確認する事に合宿、また、素晴らしい友達も手に入れることができた。

●初めのガイダンスから、重苦しい空気はなかつたけれど、夜の歓迎会になると、ネジが外れたかのように壊れる人が続出した。初めに集まったとは思えないような盛り上がり。先生方も驚いていた。話が終わり、みんな集まって話したり、夜更や日の出を眺めたりした。セミナーハウスという、みんな集まって語り合える場所、自然がいっぱいの景色が、私たちの距離を近くしてくれました。

●入学してからちょうど一週間、新しい顔にも慣れてきた頃にガイダンスでこのセミナーハウスを使わせてもらいました。ここは木が多く残されていて、多摩ニュータウンから切り取られた、まさに別空間でした。その空間で僕達は貴重な時間を共有することができました。ニュータウンの夜景と朝の心地良さを今でも覚えています。

●私は、初めオリエンテーションがどのようなものなのか想像できなくて、とても不安だった。しかし、アリスカレッジでセッションをしながら、みんなと打ち解けていき、それまでの緊張感はなくなくなった。班での一話題について話し合い、考えをまとめて発表するのととても大変だった。一人一人の意見を尊重しながら真剣に話し合うことができた。一泊という短い時間の中で、私達は、沢山の仲間と、とても楽しい思い出を得ることができた。

●今回のセミナーでは、たくさん思い出が、徐々にみんなと初めは不安と緊張でいっぱいでしたが、徐々にみんなと

話せるようになりまし。二日間という短い時間の中で、それぞれが意見を言い合い、多くの友達の方を助けることが出来ました。このような貴重な体験ができたことをとてもうれしく思っています。また、自然に囲まれた所である点が良かったです。セミナーハウスの方々に心から感謝しています。

●一泊という限られた時間でも何を話そうかと、初めは思っていた。しかし、活躍されている卒業生の話を聞いたり、セミナーごとの話し合い等を行ったりする中でこれまで自分の中に無かった考え方や視点を構築できたと思う。また、大学内では見られない、仲間達の意外な一面や新たな一面も垣間見ることができた。当初の懸念とは裏腹に、多くを得ることが出来た二日間だった。

●五月十一日から十二日まで、私たち英文科一年は大学セミナーハウスの話し合いでは将来の夢について各自の考えを発表し、友達の新たな一面を見ることができました。また私の心に一番残ったのは卒業生の方々のお話でした。この二日間を通して、多くのものを得られたと思います。最後に、この二日間私達を支えて下さった皆さんに感謝します。

●男女共学の高校、しかも理系で男子生徒の方が多いクラスを卒業した私にとって、女子大に通うことが、期待よりもはるかに不安が勝っていました。そんな中で合宿・不安以外、何の感情もありません。友だちができた。不安は、仲良く話してみんなから人離れてポツンと孤独になって、同情されてムリに友だちの輪に入るなんてことにならな。しかし、実際合宿に参加してしまおうと、そんな不安はすぐに解消された。全国各地のありとあらゆる環境から集まったクラスメイト。みんな違って同じような環境から集まっています。みんな初めの時間作りが苦戦して、一緒にごはんを食べて、ジュース片手にワイワイお喋りして、一つの大きな円を作った呼び名を決めてゲームして、きつと合宿がなければ、ここまで仲良くなるの、時間も時間がかかったでしょう。セミナーを企画して下さった方々、場所と時間、食事を用意して下さった方々に感謝します。

●入学したてでまだお互いの顔と名前もろろ覚えの状態。いきなり泊まりなんて！と最初は驚きましたが、かえってそれが良かったと思います。本館に新鮮な空気は八王子セミナーの空気と似て、これからの大学生活に活力を与えてくれるのだと思います。夜のキャンパスがアイヤードは、またもいきなり出た物を持ちたり、火の勢いに驚いたり、あつという間に時間が過ぎてしまいました。本館にお世話になりました。

●遠来荘に泊まる。茅葺き屋根で中々に古い。そのせいで夜中に見ると、人の様子は変わらないのに家の雰囲気は一変する。表口ではなく裏口に面した裏口から出入りするせいか、どうしてだろう。おたけ屋敷を目の前にしている感覚だ。さわがわがさわが穴に落ちた。お茶の水女子大学理・生活科学科・田中秀子

●お茶の水女子大学理・生活科学科・吉村菜生子

ご利用状況

01年1月9日
*尚月2回利用
**尚月2回利用
日帰りはグループ数のみ
定人数には日帰りの利用
者は含まず

4月(55グループ、延五、一四九人)

- 東京学芸大学明治文学ゼミナール
東京薬科大学新歓祭
明治大学経営学部・川口短期大学森久ゼミナール
青山学院大学教授
埼玉大学教授
中央大学教授
日本大学ケンブリッジ大学サマースクール事前研修
中央大学独文学専攻新入生オリエンテーション
日本大学新歓合宿
中央大学心理学研究室新入生オリエンテーション
東京都立大学電気系2学科合同新入生ガイダンス
大妻女子大学社会情報学部新入生オリエンテーション
お茶の水女子大学理・生活科学部新入生セミナー
東京学芸大学建築学科新入生オリエンテーション
東京都立大学工学応用化学科新入生ガイダンス
法政大学自主ゼミサークルナビゲーター
日本女子大学社会学科新入生オリエンテーション
東京都立短期大学経営情報学科新入生歓迎オリエンテーション
大妻女子大学児童学科新入生オリエンテーション
東京学芸大学幼児教育学科新入生オリエンテーション

- 東京都立短期大学経営システム学科
早稲田大学教授
東京学芸大学社会科学教室新入生オリエンテーション
日本大学教授
慶應義塾大学井下研究会新歓合宿
東京工科大学情報通信工科学科フレッシュユマンゼミナール
東京工科大学電子工科学科フレッシュユマンゼミナール
東京工科大学情報工科学科フレッシュユマンゼミナール
シユマンゼミナール

- ベルモント化粧品
スリーポンド
東京松下ライフエレクトロニクス
自費出版ネットワーク
5月(45グループ、延二、六七〇)
駒澤大学教授
東京学芸大学助教授
東京農工大学柳川直美グループ
学習院大学シェイクスピア・ドラマ・ソサエティ
芝浦工業大学電子計算機研究会
明治学院大学助教授
中央大学白門会
津田塾大学英文学科新入生オリエンテーション
武蔵工業大学就職課程
中央大学辞達学会
東京学芸大学国語科新入生合宿
中央大学国際関係研究会
東京都立大学教授
白梅学園短期大学保育科新入生オリエンテーション
東京工業大学教授
東京都立大学大学院教授

- 東京女子大学教授
早稲田大学建築学科新入生オリエンテーション
中央大学カールトン大学短期留学合宿
中央大学教授
中央大学教授
東京学芸大学助教授
東京教会留学生会
東洋大学社会経済システム学科フレッシュユマンゼミナール
武蔵野外語専門学校新入生オリエンテーション
職業能力開発総合大学校東京校
新入生オリエンテーション
弘前学院大学教授
聖書キリスト教会
日本自然保護協会
第37回位相空間論シンポジウム
フォーラム寺小屋
多摩経済研究所
クリエイティブ・アート実行委員会
日本分光
御堂前信也

- 6月(32グループ、延一、五八六)
中央大学文学部勉強会
東京都立大学工学部機械学科新入生ガイダンス
駒澤大学教授
立教大学助手
東京学芸大学学校教育選修新入生合宿研修
立教大学教授
東京都立大学教授
東京学芸大学助教授
早稲田大学教授
島田征夫
明治学院大学教授
東京大学助教授
法政大学教授
東京理科大学教授
中央大学教授
早稲田大学緑法会サークル
成蹊大学国際交流センター
帝京科学大学教授
創価大学ロシア語専攻
光合成細菌研究会
第2回「世界とアメリカ」セミナー
日本女子大学付属高等学校
第18回大学共同セミナー
日豪合同ゼミナール実行委員会
上村清グループ
アスター精機株式会社
樹の会
ジェームス事務所
松下電器産業
ルソール合奏団

- 7月(38グループ、延一、九八〇)
ICU言語研究会
桜美林大学助教授
中央大学学Y
東京農業大学助教授
中央大学教授
千葉大学名誉教授
アイセック東京大学委員会
国際基督教大学鼓武士
立教大学教授
日本女子大学教授
武蔵大学教授
駒澤大学教授
明星大学教授
電気通信大学教授
明星大学通信教育部
宮野 彬*
寺田 実
陣内秀信
志水英樹
桐山 昇
中央大学通信教育部
第29期十大学合同セミナー
大教員懇談会
拓殖大学教授
群馬大学助教授
大和政彦
中央大学大学院
第4回大学職員研修プログラム
獨協大学教授
埼玉県立朝霞高等学校第2学年サマーゼミナール
東洋鍼灸専門学校
才能教育研究会村上課ラス
女子美術大学付属高等学校
埼玉県立朝霞高等学校第1学年サマーゼミナール
日本建築家協会関東甲信越支部
日本分析化学会
東京都小学校生活科教育研究会
文学教育研究者集団
広川グループ
豊島区吹奏楽団
シエルクスピリアン・プレイハウス
郡内研究会
多摩丘陵の自然を守る会
東京八王子ワイズメンズクラブ

- 8月(77グループ、延五、一六一)
共立女子大学教授
明治学院大学助教授
一橋大学保健管理センター
学習院大学教授
法政大学教授
東京経済大学教授
中央大学国際関係研究会
明星大学教授
中央大学教授
東京大学法学部サークル
立教大学室内合奏団
高橋利宏
片岡洋右
藤澤房俊
稲垣 寛
黒川 剛
渡辺憲司

早稲田大学高橋世織ゼミ
 慶應義塾大学講師
 中央大学日本国際連合学生連盟
 一橋大学教授
 立教大学教授
 武蔵工業大学 Eco-Works
 法政大学教授
 東京学芸大学 SCENT
 東京理科大学教授
 明星大学教授
 ICU グリクラブ
 明星大学通信教育部
 中央大学通信教育部
 慶應義塾大学英語会*
 早稲田大学交響楽団
 東京学芸大学助教
 明星大学教授
 武蔵工業大学講師
 早稲田大学助教
 学習院大学教授
 東京都立大学地理学科
 東京学芸大学教授
 恵泉女学園大学就職課程
 法政大学古賀ゼミ
 東京学芸大学大学院英語教育専攻
 神奈川県立相模大野高等学校演劇部
 現代と経済
 明海大学名誉教授
 江戸川大学講師
 数論セミナー
 佼成学園高等学校英語部
 都立青梅東高等学校夏期講習会
 東海大学短期大学部
 東京 Y.M.C.A 西東京センター
 郡内研究会
 埼玉県立福岡高等学校第二学年
 中医学ネットワー
 東京神学大学公開夜間神学講座
 東京大学教育学部付属中等教育学校生徒会
 カルバリー・バプテスト豊田キリスト教会
 全国放射線技師養成施設協議会
 朝日カルチャーセンター横浜

文学教育研究者集団
 大久保集会
 AITC
 相模原キリスト教会
 ダンシングウッドベッカー
 町田市教育委員会
 福生市教育委員会
 町田聖書キリスト教会
 ガールスカウト東京都支部
 劇団アップ
 八南作文の会
 西東京市教育委員会
 秀文館英語教科書研究会
 新星堂経営企画室
 オシリス
 政策学校一新塾
 ジェームス事務所
 宮澤賢治読書会
 日本フェンオール
 国際商事法研究所
 心と体の勉強会
 〈日帰り〉
 東京八王子ワイズメンズクラブ
 〈個人〉
 江東区立第二砂町中学校
 埼玉大学教授
 東京大学分子細胞生物学研究所
 中央大学教授
 武蔵大学講師
 東京学芸大学光情報処理研究室
 早稲田大学ボランティアサークル
 大妻女子大学家政学部児童学科
 芝浦工業大学助教
 中央大学昼神ゼミ
 帝京大学教授
 ICU 歌劇団
 日本大学雄弁会
 桜美林大学教授

埼玉大学教授
 東京農工大学植物栄養学研究室
 早稲田大学教授
 武蔵大学助教
 成蹊大学教授
 専修大学助教
 筑波大学教授
 武蔵工業大学 Eco-Works
 大妻女子大学教授
 明治学院大学宮田ゼミ
 日本大学齋藤嘉一ゼミ
 日本大学助教
 学習院大学教授
 津田塾大学英語会イベントセクション
 一橋大学教授
 日本大学講師
 明治大学小川ゼミナール
 明治大学科学技術英語ワークショップ
 中央大学教授
 立教大学集中合同講義2
 東京都立短期大学深津ゼミナール
 早稲田大学教授
 立教大学助教
 東京学芸大学助教
 大妻女子大学社会学ゼミ
 東京都立大学教授
 青山学院大学中村ゼミナール
 法政大学詩人群
 早稲田大学教授
 早稲田大学教授
 筑波大学教育学系
 法政大学教授
 早稲田大学松本ゼミ
 帝京大学教授
 埼玉大学講師
 千葉商科大学体育会本部
 明治大学教授
 千葉大学教授
 立教大学日本学研究所
 関東近世史研究会
 千葉大学 BEG
 秀明大学助教
 山口和孝
 早稲田大学芸術学校
 駿河台大学助教
 東洋大学教授
 林 道郎
 上原由起夫
 敬和学園大学助教
 獨協大学教授
 立正大学教授
 国際学生シンポジウム
 現代経営学研究会
 第22回大学教員研修プログラム
 第2回フィールドワーク「シエイクスピアへの旅」
 同窓会合宿
 J D C C
 朝日カルチャーセンター横浜
 秀文館英語教科書研究会
 朝日カルチャーセンター新宿
 観照ボランティア協会
 日本経営士会
 茶室の会
 ワタミフードサービス
 スリーポンド
 東京松下ライフエレクトロニクス
 明工商事
 日本フェンオール
 河西宏祐*
 芳賀 繁
 石田勇治
 乾 彰夫
 西郷 浩
 辻 義昌
 吉村真子
 柴川林也
 江口幸治
 入江隆則
 嶋津 格
 山口桂子

早稲田大学芸術学校
 駿河台大学助教
 東洋大学教授
 敬和学園大学助教
 獨協大学教授
 立正大学教授
 国際学生シンポジウム
 現代経営学研究会
 第22回大学教員研修プログラム
 第2回フィールドワーク「シエイクスピアへの旅」
 同窓会合宿
 J D C C
 朝日カルチャーセンター横浜
 秀文館英語教科書研究会
 朝日カルチャーセンター新宿
 観照ボランティア協会
 日本経営士会
 茶室の会
 ワタミフードサービス
 スリーポンド
 東京松下ライフエレクトロニクス
 明工商事
 日本フェンオール
 河西宏祐*
 芳賀 繁
 石田勇治
 乾 彰夫
 西郷 浩
 辻 義昌
 吉村真子
 柴川林也
 江口幸治
 入江隆則
 嶋津 格
 山口桂子

表紙の写真は平成13年7月に実施された第185回大学共同セミナーの講師、ゲストの先生方。前列右端は共同セミナー委員の作家篠田節子さん、前列左から三番目は共同セミナー委員の川人博先生、篠田さんの左隣の内田勝さんは13年10月17日に急逝されました。ご冥福を心よりお祈りいたします。

今回は館長室からお休みします。
 〈個人〉
 中央大学
 山梨学院大学
 V研究会
 古川貴晴
 小俣善紀
 吉本昌司